

当院における新規透析導入患者の栄養状態の推移について検討

(医)財団はまゆう会 新王子病院

○吉村美紀 外園真矢 原千阿記

西島博満 瀬川賀世子 惣明靖元 箴島明彦

【背景】透析患者のフレイルやサルコペニアなど生命予後につながる低栄養が問題となっている。そこで、今回当院で透析治療を開始された方を対象に、低栄養につながる要素を調査した。

【目的】透析導入後の栄養状態の推移に影響している要素を分析した。

【方法】新規導入患者 38 名の栄養状態の推移を 1 年後の A1b 値で 2 群に分け、患者背景や生活環境、栄養指導受講歴などの項目を調査、比較した。

【結果】A1b 値良好群において、導入年齢は統計の平均値であったが、不良群は 74 歳と 5 歳の差がみられた。家族構成や施設入居などの環境では差はなかったが、送迎が必要な方は低栄養を呈していた。また、栄養指導を受けていた方や食事療法を実践されていた方の多くは良好群に属していた。

【考察】栄養指導受講者や食事療法実践者は良好群が多く、導入後の栄養管理に影響していた。糖尿病患者は栄養指導を受けても食事療法の実践が半分以上と、糖尿病透析患者が減らない要因の一つと考えられた。糖尿病透析患者は様々な合併症を抱えているため、コメディカルによる継続した援助・啓蒙・教育が必要である。

【結語】保存期から栄養指導を複数回受け、食事療法を実践された方は、導入後の栄養状態が改善しており、保存期からの栄養管理が大切である。